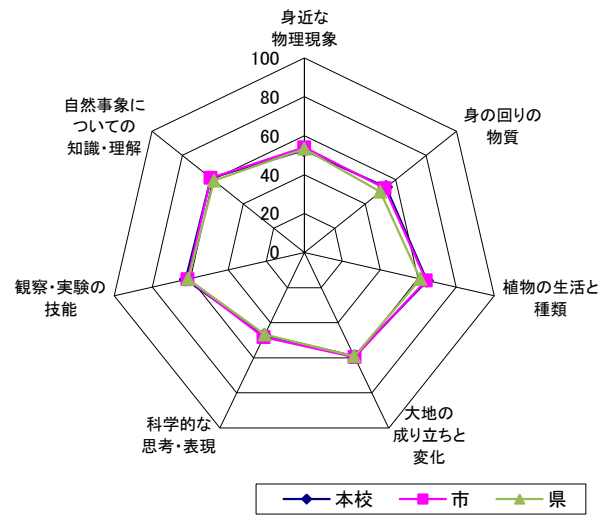


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.6	54.0	53.3
	身の回りの物質	53.8	52.9	50.0
	植物の生活と種類	64.7	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	59.2	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	47.1	48.2	46.7
	観察・実験の技能	62.4	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	61.3	61.4	59.2



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○力と圧力の問題の正答率が高く、特に水圧のはたらき方を矢印で表す問題の理解ができています。実物投影機を使って、作図の問題を解く練習をした結果であると考えられる。 ●光と音の分野で正答率が低く、特に光の反射の規則性について理解が不十分である。	・今後も作図の仕方に関して、丁寧な指導を続けていく。 ・光の反射の規則性は、実験をただ行うのではなく、丁寧に結果をまとめるなど、規則性についての理解を深めていきたい。
身の回りの物質	○水溶液の問題の正答率が高く、特に質量パーセント濃度を求める部分の理解ができています。計算問題の練習を重点的に行った結果であると考えられる。 ●密度を求めることはできるが、ものの浮き沈みとの関係についての理解が不十分である。	・今後も計算問題に力を入れ、計算の苦手な生徒にも、苦手意識のないよう丁寧に指導していく。 ・密度の計算だけでなく、実際に水にものを沈める体験などをさせて、ものの浮き沈みとの関係について理解を深めたい。
植物の生活と種類	○植物のなかまについての正答率が高く、特にシダ植物とコケ植物の違いについて理解ができています。実物を実際に観察させ、違いを丁寧に説明した結果であると考えられる。 ●生物の観察に必要な、正しい顕微鏡の使い方の理解が不十分である。	・今後も実際に植物を見せることで、印象に残る授業を行っていく。 ・顕微鏡を使用する際に、生徒に任せるのではなく、正しい使い方に沿って観察が行えるように、丁寧な指導を行いたい。
大地の成り立ちと変化	○火山と地震についての理解度が高く、特に深成岩のつくりとでき方についての問題で、県平均を大きく上回っている。映像資料や、実物を見せて印象に残る授業を行った結果であると考えられる。 ●大地の成り立ちについての正答率が低く、特に地層の問題に関する理解が不十分である。	・今後も映像資料や実物を見せる機会をできるだけ多く設けながら、授業を進めていきたい。 ・地層のでき方に関して、小学校で習ったこととの関連性も説明しながら、より理解の深まる授業展開を考え、理解が図れるようにする。